

会議名	第6回 放牧サミット
開催日時	18年9月28日13:00～16:00 29日現地検討(菊池郡、阿蘇市)
開催場所	熊本県熊本市 熊本テレサ
主催者	全国飼料増産行動会議 社団法人日本草地畜産種子協会 熊本県 社団法人熊本県畜産会
参加人数(概数)	約370名
1. 会議の概要 (資料添付)	<p>平成12年度から、飼料自給率向上のため国を挙げて飼料増産運動に取り組んでいるところ、運動の効果もあって様々の放牧が普及定着しつつある。平成8年、農林水産省は「21世紀に普及定着すべきテクノロジー」の1つとして日本型放牧の普及定着を掲げたが、現在は当初予想されなかった様々な放牧類型が出現しており、その背景、取り組みの経緯、普及に際しての留意点などを検討し、放牧の一層の普及定着に資するため第6回放牧サミットが開催され、講演会・事例発表、パネルディスカッション及び現地検討会を実施した。</p> <p>今回、サミットに参加して収集した情報を報告する。</p> <p>第一日目 (講演・シンポジウム)</p> <p>基調講演 ・進化し始めた日本人型放牧について (社)日本草地畜産種子協会 放牧アドバイザー 落合一彦</p> <p>講演 ・牛を放牧するときの馴致について (独)農業・食品産業技術総合研究機構 畜産草地研 放牧管理研究チーム 小追孝実</p> <p>(事例発表) ・熊本県の事例・・・「天草における遊休農地を利用したシバ草地放牧について」天草地域振興局農林水産部 鶴田克之 ・兵庫県における例・・・「但馬における集畜連携放牧について」但馬県民局 新温泉農業改良普及センター 井上智晴 ・栃木県の事例・・・「都府県における搾乳放牧について」畜産草地研究センター 放牧管理研究チーム 梅村恭子 ・大分県の事例・・・「耕作放棄地放牧と新規就農について」九州大学大学院 農学研究院 助教授 後藤貴文</p> <p>(パネルディスカッション) ◎テーマ「放牧を見直し地域に活力を」 ー浸透させよう日本型放牧ー</p> <p>・コーディネーター 日本草地畜産種子協会専務 野口政志 ・パネラー 農林水産省畜産振興課草地整備推進室長 大橋史郎 ジャーナリスト 増田淳子 全国消費者団体連絡協議会事務局長 神田敏子</p> <p>第2日目(現地検討会) バス7台で移動 ・鹿子本牧場 菊池郡菊陽町 転作田、阿蘇牧野放牧前後の昼夜放牧 ・上田牧場 大津町 転作田の試験地(適草種・品種の選定) ・緒方牧場 同上 自宅隣の転作田、褐毛和牛の日中放牧 ・跡ヶ瀬牧野 阿蘇市端辺 預託牛(入会組合員と外の牛)、乾草の</p>

	生産と一部販売（県内、大分、佐賀）
2. 今後の研究開発分野として重要と思われる課題・話題	<p>今後、研究開発はますます民間活力活用、産官学連携、成果主義がキーワードになってくる。しかし、畜産生産の世界は国内市場規模が小さく、また国内の畜産物需要が頭打ちの中で、民間企業の研究投資意欲は決して高いと言えない。大学や国においても、こうした流れの中では資金と時間のかかる基本的な研究から、先端分野や結果の出やすい研究課題に流れる傾向が強くなるのは否めず、農畜産業の現場から遠ざかることも危惧される。</p> <p>このような中で、適切な研究課題を設定或いは募集するためには、異分野、海外からの幅広い情報収集と本件サミットや農業の現場との接点を強化していく必要があると思われる。</p>
3. その他の発表課題で関心のあったもの	<p>シバ草地の例が多数発表されたが、地味であるが野シバ草地の事例に注目。繁殖用和牛増頭と山村の維持・振興の1つのキーになるかも。</p> <p>（落合さんの講演の徳島県の事例、熊本県から天草の事例）</p> <p>荒廃農地の利用は行政課題。主役は牛、少数派の畜産農家はあまり表に出ないで行政への働きかけに力を注ぐ方がうまく行くようだ。しかし、草刈用貸付牛（レンタルカウ）には抵抗がある。</p>
4. 今後研究開発課題採択に当たって参考とすべき事項等	<p>野シバは西洋シバの生産力に劣るが、在来の牧草でしかも急傾斜地に強く草地の持続性が非常に高く、また農山村の景観維持の上でも大変に優れている。山村における肉月牛振興の上から、野シバ草地の生態調査、特徴ある系統の調査・選抜、草地造成及び放牧管理に関する各地域に適合する総合的な技術確立が求められる。（現地主義、息の長い取り組み・調査研究と指導の継続、生態学）</p>
5. 会議の所感	<p>参加者は各県とも若い職員。何を感じたろうか？</p>
報告者	田 谷 昭